

平成24年教育委員会第10回臨時会会議録

開会日時 平成24年10月23日 午前10時00分
閉会日時 同 上 午前11時35分

場 所 教育委員会室

出席委員 委員長 面 田 博 子
同職務代理 松 本 實
委 員 遠 藤 勝 男
委 員 佐 藤 昭
委 員 竹 高 京 子
教育長 塩 澤 雄 一

議場出席委員

・教育次長	濱中 輝	・教育振興担当部長	坂田 祐次
・庶務課長	駒井 正美	・教育計画推進担当課長	若林 繁
・施設課長	齋藤 登	・学務課長	土肥 直人
・指導室長	岡部 良美	・統括指導主事	志村 昌孝
・地域教育課長	小曾根 豊	・生涯学習課長	今井 英敬
・生涯スポーツ課長	柴田 賢司	・中央図書館長	橋本 幸夫

書 記

・企画係長 菊池 嘉昭

開会宣言 委員長 面田 博子 午前10時00分 開会を宣する。

署名委員 委員 面田 博子 委員 松本 實 委員 塩澤 雄一
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

○委員長 それでは、ただいまから平成24年教育委員会第10回臨時会を開会いたします。

本日の会議録の署名は、私に加えまして、松本委員と塩澤教育長にお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

本日は、議案はございません。

それでは、報告事項等に入ります。

報告事項等 1 「平成23年度葛飾区各会計歳入歳出決算の審査について」 お願いいたします。

庶務課長。

○庶務課長 それでは、報告事項等 1 「平成23年度葛飾区会計歳入歳出決算の審査について」
ご説明申し上げます。

本件につきましては、教育委員の審査についてご報告させていただきます。

審査日は、平成24年10月11日、木曜日でございます。

1枚おめくりいただきますと、第4分科会における各会派の意見が記されてございます。

まず、葛飾区議会公明党の意見でございます。

「教育費については、いじめの予防対策の充実強化を要望する。災害時の医療救護所については、保健所などとの連携を密にし、実効性のある設置を求める。校務システムの導入に対しては、『子ども達とふれあう時間の確保』との当初の目的が早期に達成できるよう、一層の努力を望む。各学校・各施設における省エネルギー対策の取り組みを教育委員会がしっかりと掌握・検証したうえで、学習環境や利用者へのサービス低下にならないよう配慮しつつ、更なる推進を目指してもらいたい。」

以下記載のとおりでございます。

続きまして、自由民主党議員団の意見でございます。

「教育費については、おおむね適正な執行と認める。新しく就任した教育長の手腕に期待する。そのため、自らの理念を明確に示して学校現場をよく知ることを要望する。また、教育委員会だけでなく区職員全体の力を結集してレベルアップを期されたい。独自教材制作経費については、成果や実績をフィードバックして活用することを要望する。民間委託が進む学校給食は、児童・生徒や保護者の反応も良好であり、経費削減の見地からしても大変有効なので今後も委託を推進して欲しい。」

以下記載のとおりでございます。

日本共産党葛飾区議会議員団の意見でございます。

「教育費について、学校選択制は、意図的に児童が集まる学校と集まらない学校をつくり校庭や体育館など教育環境を悪化させている。こうして統廃合を進めようとしている。選択制を見直し、統廃合計画はやめるべきである。いじめ問題解決のためにも、スクールカウンセラー、

スクールソーシャルワーカーのさらなる改善を求める。学校給食費は憲法にもとづき無償にするとともに、就学援助基準を改善すること。非構造部材の耐震化とともに、屋上防水や外壁など必要な修繕を早期に実施し、長い目で見た長寿命化を進めるべきである。」

以下記載のとおりでございます。

民主党葛飾の意見でございます。

「教育総務費について、小中一貫教育推進経費は、一貫教育をしっかりと評価・検証することを望む。スクールカウンセラー派遣事業経費は、不登校・いじめ対策の強化と教職員へのケアを求む。教育情報化推進経費は、情報の共有などさまざまな内容の強化をし、一層の活用を求む。小学校費について、コンピュータ機借上料は中学校費にもあるが、デジタル教材を使い、分かりやすい授業を行うことは大変重要である。今後の導入に際して多くの子どもが機器等に触れられるよう、課題抽出・見直しをきめ細かく行うよう望む。」

以下記載のとおりでございます。

地域政党葛飾の意見でございます。

「平成23年度の教育費及び各特別会計については概ね適正に執行されていると認定する。教育費については、学校教育活動指導経費は、成果と検証を教育委員会と現場がもっと密に連携をとり、保護者・地域の方の協力を得る努力を求める。以前にも指摘したが、授業での補教と称した代替教員の時間が未だに改善されておらず、早急な改善を求める。中学校の移動教室の費用については、2年後には消費税が上がる見込みであるので、料金については情報を的確につかみ適正な金額を決めて保護者負担を少しでも和らげる努力をされたい。」

以下記載のとおりでございます。

続きまして、無所属議員の意見でございます。

「いじめの問題について、表向きは『いじめ』に対する緊急メッセージを発信するなど、真剣に取り組む姿勢に見えるが、実態は答弁を聞いていても覇気や誠意が感じられない。また、今回も保護者から教育委員会の対応について議会で取り上げてほしいとSOSが来るなど、教育委員会と生徒・保護者との関係・意思疎通がうまくいっていないどころか、信頼関係が破たんしている事例が見られる。まずは信頼関係を築いたうえで今後は行動で示してほしい。」

以下記載のとおりでございます。

次のページ、もう1件無所属議員の意見でございます。

「教育費及び各特別会計については、おおよそ適正に執行されたものと評価する。教育費についてであるが、本区が積極的に取り組んでいる小・中学校の特色ある学校づくりは、生徒の自主性と創造性を育むために不可欠であり、今後の更なる成果を期待する。例えば、住吉小では学校近隣の畑を借りて野菜の苗を購入し、児童が育てることで『食育』に活用する効果が大きい。また、青葉中では、葛飾盲学校との交流を継続的に行う事で、お互いの意思の疎通がで

きる等、それぞれの学校ならではの学習意欲が一人ひとりの生徒の将来の大きな力になるものと期待してやまない。」

以下記載のとおりでございます。

説明は以上でございます。

○委員長 今、説明がございました。質問等ありましたらお願いいたします。

佐藤委員。

○佐藤委員 ちょっとわからないところがあるのでお聞きしたいのですが、地域政党葛飾の上から3行目です。「以前にも指摘したが、授業での補教と称した代替教員の時間がいまだに改善されておらず早急な改善を求める」とありますが、ちょっとわかりません。お願いいたします。

○委員長 指導室長。

○指導室長 そちらの地域政党葛飾の議員の方からのご質問につきましては、授業時間において、例えば教員が出張する。または教員がやむを得ず体調を悪くして休暇をとるといようなときに、実際にその教室から教員がいなくなるわけですけれども、そのときの対応についてのご質問でございました。学校のほうで調べているところによりますと、実際に子どもたちが全く――例えば1単位時間、中学校ですと50分、小学校ですと45分ですけれども、全くそこにだれも教師がいない状況で授業を進めているという状況はないということになっております。ただ、実際に教員の数の問題もありますので、例えば隣の教室にいる教員が時々見に行くといような状況はありますけれども、そういう意味では教師が不在で授業を行っているということとはございません。そのあたりについては、私のほうからの説明も十分ではありませんでしたので、今後また地域政党葛飾の議員の皆様にもご説明をしてみたいと考えております。

○委員長 よろしいですか。

松本委員。

○松本委員 前にも言ったのですけれども、中学校は教科担任制だから前もってその人がいなくなるというときには、貴重な1時間だから、できる人が行って交換して授業をやるということで、こういう授業時数が大切であるということになってからはないと思います。ただ、小学校は定数が決まっています担任制ですから、急遽だれか行って授業するというのはかなり難しいのですけれども、授業時数確保が貴重なときになっているので、有効な何か課題を与えてやっていると私は思います。

○委員長 ほかにございませんでしょうか。

遠藤委員。

○遠藤委員 無所属議員の一会派、1番目の無所属の会派の中でいじめ問題が取り上げられておりまして、その中で4行目になりますが「信頼関係が破たんしている」という認識をされて

いるわけです。この実態はどうか。また、その責任というか、原因はどういうところにあるのかというようなことを、可能な限りで結構でありますのでお願いしたいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 この件につきましては、昨年度の5月の件から始まるものでございます。校内で起こった、学校としてはそのときに子ども同士のかかわりの中で生じたことというふうにとられておったわけですが、結果としては片方のお子さんがそれについていじめを受けたということで心的ストレスを感じたということでございます。そのあたりについて学校と保護者等の話し合いが十分ではなかったということから、この問題が今も続いているということでございます。

昨年度につきましては、教育委員会の指導室長が先頭に立って保護者と個人で対応していた状況がございましたけれども、今年度になって大津の事件もございましたので、もう一度保護者の方としては、昨年度の学校の対応において、いじめとして認知をしっかりとっていたのかどうかということを含めて、再度保護者の方から調べてほしいというご要望がございました。

そのあたりについて、私もこの前の議会のほうでもお話をさせていただきましたが、学校と教育委員会の保護者の求めに対してのスピード感というものが欠けていたというふうに思っています。そのあたりが実態であり、また、信頼関係も損ねているという部分になるというふうに考えております。現在、保護者の方といろいろ連絡を密にとっていますけれども、また、今週にもお会いして、昨年度の学校の管理職、さらには今年度の学校の管理職、そして今の教育委員会の私たちとあわせて、お話はきちっとしていく予定を詰めているところでございます。

○委員長 よろしいですか。

ほかにございませんでしょうか。

竹高委員。

○竹高委員 地域政党葛飾のお話の中で、学校支援指導員の増員、学校図書館支援指導員増員と時給アップ等々が出ていますのですけれども、多分毎年どこかでこういうお話は出てくると思われるのですが、学校支援指導員の増員や学校図書館支援指導員の増員、増時間などは教育委員会のほうでお考えのほうはなっているのでしょうか。

○委員長 指導室長。

○指導室長 現在、来年度の予算に向けて教育委員会の中で最終的な打ち合わせをしているところでございます。その中で、今お話がありました学校図書館支援指導員の方の例えば実際働いていただく時間をどうしていくのか、それから学校支援指導員についても、今後どのような人数とか時間を設定していくのか、その辺についても今検討しているところでございます。

○委員長 よろしいですか。

○竹高委員 ありがとうございます。

○委員長 ほかにございませんでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 私のほうから。

民主党葛飾さんの中にもありましたが、いわゆるデジタル教材のこと。それからそのことは区議会の公明党の中にも校務システムの導入のところにやはり関連をしてくるITのかかわりのことだと思うのです。そのあたりのところがきちんと各先生方に浸透しているというか、実際に自分でそういう方向に向けて、例えば子どもたちとふれあう時間を確保するのだというような気持ちで、あるいはデジタル教材を活用することが子どもにとってわかる授業につながるのだということをよくわかった上で向かっていただかないと、そういうものが上からおりてきて今やっているのだというような考えだと、せつかくのものが生きないのかなというのを現場で少し感じることもありまして、そのあたりもぜひ、意見も出ておりますが、強く機会をとらえて研修等も含めて教員にお話をさせていただければと思います。

指導室長。

○指導室長 ICTを活用した授業、そして公務システムについても、それぞれ公務システムの導入によって子どもと教師が触れ合う時間をきちっと確保する。さらには、子どもにとって魅力ある授業をするというようなねらいを持って進めているところでございます。ぜひ、今、委員長のほうからご意見ございましたことも踏まえて、研修の実施、さらには教員の意識も向上できるように学校の管理職と一体になって私たちも進めてまいりたいと考えております。

○委員長 忙しい時間帯ですけれども、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

ほかにございませんですか。

(発言する者なし)

○委員長 それでは、次の報告事項等2へ行きます。「平成24年度中学校連合陸上競技大会の実施結果について」。

指導室長。

○指導室長 それでは、私のほうから「平成24年度中学校連合陸上競技大会の実施結果について」ご報告をさせていただきます。

10月4日に中学校連合陸上競技大会が総合スポーツセンター陸上競技場で行われました。全中学校24校、約760名の生徒が参加をいたしまして、37種目の競技が開催をされたところでございます。結果につきましては、資料のとおりでございます。資料をごらんください。

今年度も天候に恵まれまして、大きな事故もなく終えることができました。各種目において接戦が見られまして、そこの結果の表のとおり、団体の総得点でも接戦となる状況でございました。

今年度は、男子については第1位、立石中学校、女子では高砂中学校、総合成績では立石中

学校が第1位となっております。1位から6位までの入賞につきましては、表のとおりになっております。

少しここ3年間の様子をお話をさせていただきます。男子につきましては、ここ3年間立石中学校がやはり1位をとっております。さらに、今年度の特筆すべき点におきましては、男子の小松中学校、大道中学校はこの3年間では初の6位以内の入賞となっております。さらに水元中学校は3位になっておりますが、22年度が5位でございましたので、この3年間の中で5位から3位に躍進をしているということがございます。

女子の部につきましては、ここ3年間では、高砂中学校が連続して2年間ですが1位をとっております。さらにこの3年間におきましては、小松中学校が初の6位以内の入賞を果たしたということでございます。

総合成績につきましては、ここ3年間、立石中学校が1位でございます。そして3年間の総合成績を見ましても、小松中学校が初めて6位以内に入ったということが、私たちのほうから読み取ることができるところでございます。

さらには、個人成績のほうに参ります。個人成績の中でも大会新記録が出ております。3年男子100メートル、共通男子の400メートル、1年男子1,500メートル、そして共通女子の1,500メートルとなっております。共通女子の1,500メートルにつきましては、葛飾区中学校最高記録となっております。

さらには1、2年女子の走り幅跳び、そして共通男子4×100メートルリレーが大会新記録となっております。

それぞれ陸上部のある学校も、さらには陸上部のない学校も今回総合成績男子・女子の記録においても好成績をおさめた学校がございました。また、来年度も実施をしてみたいけれども、小学校のこれからの陸上大会とも連携を図りながら、葛飾区の子どもたちが一つの自分の努力した成果を発揮する場として、それぞれの大会が活かされるように私たちのほうとしては今後も実施をしてみたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。ただいまご報告ございました。質問等ありましたら。

遠藤委員。

○遠藤委員 大変天気のいいときにすばらしい競技が開かれましたこと、まずお祝いをしたいと思います。そこで、こうして1位で立石中学校が3年間、それから総合でも1位という上位の学校につきましては、特に中学生は、中学生だけではないのですが、やはり指導者と指導方法ということが非常に大きく影響し、あるいは決定的とも言えるような内容になるのではないかと思います。そこで、こうした優秀な成績をおさめた学校の特色ある指導者、あるいは指導方法、すぐれたものを私たちはやっぱり全区で共有していく必要があるのではないかと思います。

ので、そういう意味で指導室としてはどういう分析をされているのか、聞かせていただければと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 今、お話しいただきましたとおり、やはり成績等については、確かに指導者の力は、これは大きいというふうに考えております。ただ、立石中学校のここ3年間の様子を見ますと、男子は1年生から、今3年生になっておりますけれども、非常に能力の高いお子さんがいるということも事実でございます。そういう意味では、陸上が好きで陸上を始めた子ども、さらにはその中でも非常に最初から力のついている子どももいるというような現状がございます。ただ、今、遠藤委員からお話ございましたように、やはり指導方法等については、それぞれ中学校の保健体育部とも連携を図る必要があるというふうに考えております。連合陸上競技大会の開催の前後でも、それぞれ記録から皆さんで振り返る準備段階での話し合い等々あると思いますので、その中でぜひ好成績を出したところの例えば指導法を参考にしていくとか、そちらについては今後も私たちのほうからも、ぜひそういう機会を持つことができるように進めてまいりたいと考えております。

○委員長 ほかにございませんか。

竹高委員。

○竹高委員 当日は本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。生徒たちの走りとか競技を見ていて、とてもすばらしいなと思って感動させられたのですけれども、いろいろな学校が、出てきている選手の人数にばらつきがあるようにやはり感じて、総合の点数に上がってくるには、全ての競技に同じ人数ではないですけれども、出ていないと例えば順位をつけていくことに関しては若干ちょっと変わってくるのかなというふうにも感じます。生徒数が少ない学校はもちろんこういう形で出てくるのがなかなか難しくもなるように思うのですが、学校同士、例えば女子であれ男子であれ点数をつけていくのであれば、なるべく全ての学校からある程度の子どもたちが同じ基準で出てこれることも、これから先の中学校の子どもたちにとって、陸上競技が自分の生活の一つの形に、趣味としてもなっていくためには、同じことで経験ができるということも大切なのではないかなというふうに思いました。

ちょっとお聞きしたいのは、6位までに入っている学校は、全て陸上部があるのでしょうか。体育部の先生方もとても能力が高い先生方もいらっしゃると思いますので、できれば来年はみんないろいろな競技に参加できるような形で参加していただけると、もっとすばらしいのかなというふうに感じましたので、よろしく願いいたします。

○委員長 指導室長。

○指導室長 1位から6位までの件についてお話をさせていただきます。先日、校長先生方とお会いする機会がございました。そのときに大道中学校、今回男子で初めて6位に入りました

けれども、大道には陸上がないという話を聞いております。しかし、陸上部がない中でも、日ごろの保健体育の授業の充実等を図りながら、さらには大きな区の毎年行われる、27回行われておりますけれども、伝統ある大会に向けて学校全体がそれに取り組んだ結果であるというふうに思っております。

人数のばらつきにつきましては、それはそれぞれ学校の事情があると思っておりますけれども、今の竹高委員のお話も踏まえまして、また校長会とそちらについて私のほうも情報は交換をしてみたいと考えております。

○委員長 よろしいですか。

○竹高委員 はい。

○委員長 ほかにございませんですか。

松本委員。

○松本委員 私もこの陸上競技大会にかかわってきたので申し上げますと、前は300のトラックでみんなで行ってグラウンド整備をして走るような環境の中でやっていたのですけれども、奥戸のスポーツセンターができて、全天候の走路ができて、そして素晴らしい電機で写真判定ができる環境になって、運営も子どもたちも大変やりやすくなって、その積み重ねでこういう好記録が出ていると思います。

先ほどから言われていますように、24校の中で限られた学校が上位にいつているのですけれども、これはやはり陸上競技部を指導していく人材が不足しているということも言えると思います。できたら教員の異動とかそういうときに、できるだけ陸上を指導できる人を確保していただいて競技力を向上したらいいと思います。

以上です。

○委員長 よろしいですか。

指導室長。

○指導室長 今、人事のお話でしたが、現在、校長先生方とも来年度の人事の構想についてお話をしているところでございます。確かに今、松本委員からございましたように、陸上のできる人をぜひ葛飾にというようなお話もございますので、私もいろいろネットワークを使いながら頑張っていきたいと考えております。

○委員長 よろしく願いいたします。

ほかにございませんでしょうか。

遠藤委員。

○遠藤委員 一言、二言になりますけれども、大変恐縮ですが。今、大道中学が陸上部がなしでこのような結果が出ているということを思い起こしまして、今年度当初に行われました校長先生のプレゼンで、大道中の校長先生に、この学校を盛り上げていく決意を語っていただきま

した。そして、Tシャツまで披露していただきまして、必ずや3年計画でやっていくという校長先生の決意が今、脳裏に焼きついておりまして、あっ、なるほどこうして既に結果として出して、単に陸上が優れているということではなくて、陸上の優れていることを通して学校を建て直していくという校長先生の決意がここにあらわれているのではないかなということを感じました。所感であります。

○委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 それでは、私のほうから。

中学生時代というのは、自分を振り返りましても非常に心も体也多感な時代。そしてまた、頑張れば頑張って自分が予想していた以上の力が発揮できた。そういうのを体験したことを思い出すのです。そうしますと、よくいろいろな競技会でも中学生がすごい力を発揮している姿などを見ると、目標に向かって自分を鍛えていく。ここで鍛えてあげたいなという中学校時代で思いを強くしたところなのです。さっき室長が成果の発表の場でありたいということで私も同感でございます。

この間参加して様子を見せていただいたのですが、もちろん体育の先生、それから校長先生方の準備体制、すばらしかったのですけれども、それ以上に子どもたちの態度がよかったのです。非常にきちんとして話を聞く態度。開会式もそうですが、まじめな態度、すばらしいなどいうふうに思いました。ああいう態度でちゃんと競技会に参加できるということが私は非常にうれしくて、さわやかな大会だったなという気持ちが今あります。

このことが、あそこに参加した子どもたちが核となって、各学校でそういった気風、まじめにしっかり目標に向かって頑張ることがすごいことなのだし、今それをやるべきなのだという、そういう気風が、このことが核になって広がっていくことをぜひ期待をしたいなと思いつつながらお礼を申し上げたいと思います。

一つ思ったのが、1位と2位の差があまりにも点数が違うのでどうしてかなと思ったら、先ほど非常に今、立石中には能力的にすばらしい子どもさんが多くてということで、「ああ、そうなのか」と安心をいたしました。非常に男子ですか、68と41は差があるなと思いつつながら見させていただきましたが、よくわかりました。大道中や小松中のこともよくわかりましたので、ぜひ、これが発展することを期待したいと思います。感想です。

では、よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 では、次に参ります。報告事項等3「平成24年度第27回葛飾区中学校英語スピーチ&プレイコンテストの実施結果について」。

指導室長、お願いします。

○指導室長 それでは、平成24年度第27回葛飾区中学校英語スピーチ&プレイコンテストの実施結果について」ご報告をさせていただきます。

10月11日、木曜日に亀有のリリオホールにおきまして、中学校全校の24校から64名の生徒が参加をして実施をいたしました。

一昨年(平成23年度)の25周年記念大会におきまして、2年生が出場できる3分以内でのスピーチを行うスピーチ1の部門をふやしておりますので、今年度も2年生対象のスピーチ1を継続して実施をしたところでございます。

こちらのほうに今回の部門では、暗唱の部門(レシテーション)、これは2分以内で暗唱したものをスピーチするというものでございます。スピーチ1は、先ほど申し上げましたが、中学校2年生を対象に3分以内でスピーチを行う。そしてプレイといいますのは、演劇でございます。そしてスピーチ2とは、こちらは3年生を対象に5分以内でスピーチをするというものでございます。こちらの部門について、それぞれ実施をしたところでございます。

まず、こちらのプレイ、演劇の部門につきましては、出場校が昨年に引き続きまして常盤中学校と立石中学校が出場をしております。さらには、スピーチの部では原稿を壇上に置いて読みますと減点となるということがございますが、指導主事が見てきたところによりますと、出場者のほとんどが原稿を持たずにステージに上がって堂々とスピーチをしていたということでございます。優勝者、そして上位入賞者はもちろんですが、出場した生徒たちは皆練習の成果を見事に発揮をいたしまして、英語をしっかりと暗唱して自分の考えを発表していたということでございました。その内容、そしてその態度、そして発音、さらにはイントネーションなど、どれをとっても昨年に引き続きましてレベルが高かったと、審査員に当たられたALTの方から高い評価をもらったということでございました。

結果については、次のとおりでございます。まずレシテーションの部では、6名の出場者で第1位は本田中学校の三瓶さんでございました。スピーチの部、うちスピーチ1の部、出場者9名でございました。こちらは2年生対象ですが、第1位は桜道中学校の澤田さんでございました。そして演劇(プレイ)の部、出場校2校でございましたが、常盤中学校の「ヘンゼルとグレーテル」が優勝をしております。そしてスピーチ2の部、3年生対象でございますが、小松中学校の池畑さんが第1位となっております。

なお、今年度の東京都の中学校英語学芸大会を12月に実施予定でございますが、そちらにはスピーチ2の部で優勝いたしました小松中学校の池畑さんが出場する予定になっております。

最後になりますけれども、今回につきましても英語スピーチ&プレイコンテストにつきましては、平日の開催ということになっております。区民の代表の方からのお声の中には、「土曜日に開催をしたらどうなのか。これだけ子どもたちが活躍しているのだから、いろいろな方に

見ていただく機会にしたらどうか」というようなご意見も出ておるところでございます。年間の中学校の行事の予定等も考えますとなかなか秋の時期が非常に難しい状況ではあると思っておりますし、生徒への負担等や教員の体制の面からも土曜開催が実際可能かどうかのなにかについても、また今後中学校長会とは検討はしてまいりたいというふうに思っております。12月に東京都の大会があるということで、あまり早くコンテストをやってしまったら代表者が間があいてしまうとか、そういういろいろな条件もございますので、その辺もしっかりと私たちのほうで検討して中学校長会と連携を図って、また来年度の実施については考えてまいりたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。質問等ありましたらお願いいたします。

竹高委員。

○竹高委員 当日聞きに行きたかったのですが、所用で行けず残念でした。本当にお疲れさまでございました。英語をしゃべれるということだけでも国際化の中ですばらしいなと思うのですが、前に一度中学生がやはりスピーチするのをお聞きしたのですけれども、本当にイントネーションも発音もすばらしいなと思うことをやられていると思います。それに関してご協力くださいます各学校の先生方ですとか、企画されて動いていらっしゃる方々は本当にご苦労さまだと思います。

秋のときに12月に向けて、先ほど指導室長がおっしゃいましたように、この大会を行うということは、やはり早めるのであれば夏ぐらいに大会をするしかなくなってくるのかなと思えますし、土曜日にこれを行うということは、中学生のいろいろなスポーツをやっている子たちにとっては秋の大会というものがやはりありますので、そこら辺にもできるだけいろいろなスポーツとかもかかわらないところで折り合ったところでとれるのであれば土曜日に葛飾の日の午後とかに開催できるようになると、やはり見るほうとか、そういうのももったいないかなと思うので、参加できる方がふえて、またこれをやりたいと思う下の子どもたちもふえていくというのはすばらしいことかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長 指導室長。

○指導室長 ありがとうございます。今のご意見も十分に参考にさせていただきたいと思えます。なお、申しおくれましたけれども、この英語のコンテストを行うに当たり各中学校の英語の教員の非常な事前の努力と子どもへの指導、さらには当日の運営、非常にこれは大きなものがございます。葛飾区の子どもたちが一番最初に開いたころは、非常にまだスピーチについてはまだまだ力が弱かったということがございますけれども、先ほど申し上げましたようにALTの審査員の方が「非常にすばらしい」というふうなお話をいただけるようになったのも、やはり英語科の教員の力なのかなというふうに思っております。ぜひ、またこの大事な子どもた

ちの発表の場でもありますので、全体的なことも考えながらよりよい実施になるように私たちも今後も進めてまいりたいと考えております。

○竹高委員 よろしく願います。

○委員長 よろしいですか。ほかにないでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 一つお伺いしてよろしいでしょうか。参加者なのですが、各中学校代表生徒ということですから、中学校で出たいなという子どもたちを審査という言葉はよくないかもしれませんが、そしてここへ上がってくる。そういうふうに取り上げてよろしいのかということと、それからプレイの演劇があるのは、英語の演劇クラブがあってやっているのかどうかも伺いたいです。それから先ほどにも関係しますが、各中学校の代表生徒で6名というのはどういうところで絞り込んだのか、時間の関係があるのかななどと思いつつ聞きますが、その3点をわかる範囲で教えてください。

指導室長。

○指導室長 まず、それぞれ中学校の中での代表の生徒については、それぞれ中学校のほうで当然やってみたいという子どもについて希望をとり、やっている中で代表を選ぶということで、ある意味では中で切磋琢磨しながら代表を選ぶということはしていると聞いております。

演劇クラブについては、私のほうで申しわけありません。2校だけなのかというところはまだ把握しておりませんので、こちらについてはしっかり把握をしてまいりたいというふうに考えております。

さらには、先ほどの6名というようなことがございました、レシテーションというのは6名というふうになっておりますけれども、こちらについては6名、6校の1年生が出ております。これについては、応募する子どもがこれだけだったということで考えております。

○委員長 わかりました。切磋琢磨して各学校で盛り上げていけば一番いいと思います。ありがとうございます。

それでは、次の報告に入ります。報告事項等4「平成24年度小学校陸上大会の実施結果について」。

指導室長、お願いします。

○指導室長 それでは、「平成24年度小学校陸上大会の実施結果について」ご報告をさせていただきます。

10月13日、「葛飾教育の日」の午後、総合スポーツセンターの陸上競技場で小学校陸上大会第2回が実施をされました。今年度は、6年生の児童全員の学校単位で参加する学校は9校ございました。そして、参加希望児童のみが参加する学校32校とで合わせて41校の参加がございました。そして、今年度は約1,070名の児童が参加をしたところでございます。

資料をごらんいただきたいと思います。種目につきましては、そちらに表記させていただいた種目で行っております。結果につきましてお話をさせていただきます。

まず、今回2回目ですが、100メートル走男子1位の記録ですが、昨年度の記録と比べまして上回った状況でございます。昨年度は13.4秒でございます。100メートル女子につきましても、1位の記録は昨年度は14.2秒でしたので今年度が記録を上回っております。

50メートルハードル走の男子1位の記録につきましても、昨年度が8.6秒でしたので今年度、上回っております。50メートルハードル走の女子につきましても、昨年度が9.0秒でしたので、今年度優勝記録は昨年度を上回っております。

1,000メートル走男子につきましては、昨年度の記録のほうが約8秒ほどよかったということで、今年度1位になりましたが昨年度の記録までは及ばなかったという状況でございます。1,000メートル走の女子につきましては、昨年度より約12秒ほど速い記録になっております。昨年度よりよい記録を出しております。

さらに、今年度より走り幅跳びのほうも実施をされております。男子・女子とも、この記録が出ております。

次にリレーでございます。4×100メートルリレーの男子につきましては、今年度の1位の記録は55秒6、昨年度が56秒4でしたので今年度が記録を上回っております。女子のリレーにつきましても、昨年度は1分1秒1ということでしたが、今年度は58秒3ということです。今年度の記録が上回ったという状況でございます。

2回目の実施でございましたが、各学校がこの大会に向けてそれぞれ体育の授業をきちんと計画的に行い、5年生から陸上が始まりますけれども、その成果が一つここに出ているというふうに考えております。

さらに、当日の運営についても昨年度は時間を少し超過してしまったという状況がございましたけれども、今年度については運営面、そして進行面においてもそれぞれ小学校の体育部等を中心に予定どおり行われた状況でございました。当日は天候にも恵まれまして、今お話ししたような好成績も出た状況でございます。

来年度、平成25年度になりますが、こちらにつきましては、今度は名称を変更いたしまして「小学校連合陸上競技大会」というふうにしてまいりまして、今の予定では平日の2日間に午前午後1回ずつの計4回実施をして参る予定でございます。そして、今年度につきましては41校の参加でございましたが、来年度は全校の参加ということで、予算化も含めて今、取り組んでいるところでございます。小学校で活躍した子どもたちが、またさらに中学校の陸上競技大会で活躍するのかなと思いますと非常に楽しみな思いでございます。

私のほうからは以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。質問等ありましたらお願いをいたします。

遠藤委員。

○**遠藤委員** ただいま指導室長のほうから来年度は全校というお話を聞きましたので、私はホッとしまして。と申しますのは、やはり子どもたちの友だち間でのいろいろな会話の中から「僕たちの学校はどうして出ないの」というような声も聞いたことがありまして、これは単に学校の都合、あるいは先生方の都合だけで出場しないとなれば、子どもたちがかわいそうなのではないかなと思います。今、改めて来年度は全校ということを知りまして、ホッとしているところであります。

以上でございます。

○**委員長** ほかにございませんですか。

竹高委員。

○**竹高委員** 本当にお疲れさまでございました。見に行かせていただいたのですけれども、とても天気がよかったので、外側のところですごく日差しが強いところがあったのが若干気になり、それ以上、あともうちょっと暑くなるようだったら子どもたちを日差しのないところへ移動させないとまずいのかなというふうな若干感じたので、天候次第によってはカバーをするようなものを若干頭に入れておいていただくほうがよろしいのかなというふうに感じました。

あと子どもたちが待機している場所に上がるのに、スポーツフェスティバルのときにあるような階段がどこにもなかったのです。私もスーツだったのですが、そのまま上がって子どもたちの様子を見に行っただけです。その場所は事故とかも何もなくいいのですけれども、階段はやはり乗る場所にはつけておかないといけないのかなというふうに感じました。待機している場所から子どもたちが出入りをすごくたくさんしていただきましたので、その部分はよろしく願いいたします。

来年度、全校がやるということで、ぜひ2日間頑張ってやっていただきたいなと思います。小学生は先ほどのスピーチコンテストとは逆に土・日がとても忙しいので、土曜日のしかも「葛飾の日」の午後となってくるとなかなか出られない子も、この時期「少年の主張」とかぶっていたりとかいろいろな学校がありますので、そこがやはりみんなが水泳大会と同じように競技をやって、自分がやったことを発表できる場があるということはとても素晴らしいと思うので、ぜひよろしく願いいたします。

○**委員長** 指導室長。

○**指導室長** 今回2回目の実施をさせていただいたところでございます。また来年度の陸上も今度は連合になりますので、そちらに向けては2回の実際の様子を反省をしっかりと、課題を踏まえながらまた実施をできるように予定はしてまいります。今いただいた課題のほかにも、例えばスタートの問題とか、まだまだいろいろ課題はございましたので、その辺も含めてまた今度の来年度に向けて今年度に話し合いが持たれますので、そこではまたお伝えをしていきたい

と考えております。

○委員長 ほかにございませんでしょうか。

松本委員。

○松本委員 昨年もことしも、見学といいますか、参加いたしましたので感想を述べたいと思います。昨年よりも工夫してあって、時間内までにテキパキと動いて運動量もあったと思います。来年、全校で実施するに当たっては、ぜひ写真判定の装置があるので、これをもって大会運営をすると小学校の教員の負担も減って、子どもたちも記録がすぐ電光掲示板に出ますので関心も高まり、記録証も事務的に効率よくなっていくと思います。そのためには、写真判定装置を使うのはなかなか能力とか資格みたいなものが要りますから、陸上競技協会に相談していただいて専門家をつけて、スターターと連動しておりますので、スタートと判定装置、そういうポイントになるところに陸上競技協会の人材を使っただければと思います。

最大の工夫は、大勢の児童が待っている時間とか待機している時間とかを工夫しないと難しいと思うので、検討を重ねていただきたいと思います。

以上です。

○委員長 指導室長。

○指導室長 ありがとうございます。今ご指摘いただいた点についても、きちっと私たちのほうでも学校と協議しながら課題の解決に向けて進めてまいりたいと考えております。

○委員長 よろしく願いいたします。

ほかにございませんですか。

佐藤委員。

○佐藤委員 私も遠藤先生同様、全校参加ということで大変いいのではないかと思います。考えてみますと、昔私どもが小学校のころは連合運動会というのがあって、柴又の江戸川のグラウンド、あそこでやった記憶があります。運動だけではなく応援を通して団結力とか絆とかいろいろ育つし、大変いいのではないかなと思います。よろしく願いいたします。

○委員長 ほかにございませんでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 では、私のほうから。

先ほど「このタイムは昨年を上回っています」という話がたくさん出ました。それは、各学校の現場の先生方が陸上大会を目標として、子どもたちにそういう意欲とか頑張る気持ちを育てながら鍛えてくれたおかげだなというふうに思います。そのことが来年度全校参加につながっているなど改めて思いました。ありがとうございました。

そしてまた、室長のお話の中に授業を計画的に組んで、そして成果のほうへいけるように、これはやっぱり基本なのです。特別に残して練習するというのではなくて、授業の中でやはり

計画的にいきながら鍛えるということも大事なことで、よかったなと思いました。

それから中学校で連合陸上大会があれだけきちっと整然とできるようになっていますので、小学校のほうもその辺のノウハウとか、先ほどもお話ありましたけれども、ぜひ取り入れて困ったこととか、あるいはこういうことがよかったよというような話ができると現実的にはいいのかなと。先ほど中学校のときに見に行きましたが、学校のテントがあつたりして、その中で日陰をつくっている。そして校長先生のお話だと「そのテントの大きさが学校の歴史がわかるのだ」というような話も聞きまして、おもしろいなと思いながら聞きました。中学校の連合陸上大会の方々と打ち合わせなどもしていただいて、いいところは取り入れてスムーズにやっていたらと思います。

指導室長、お願いいたします。

○指導室長 今、小学校と中学校のお話が出ました。陸上競技大会を一つのきっかけとしても小中連携を図る大事な始点になると思っておりますので、この辺も含めてまた小学校・中学校の教員がそれぞれ連携ができるような体制が組めれば良いと考えております。ありがとうございます。

○委員長 よろしく願いをいたします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 では、次に報告事項等5「平成23年度児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果について」。

指導室長、お願いいたします。

○指導室長 それでは私のほうから、昨年度でございますが、「平成23年度児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査について」ご報告をさせていただきます。

この調査につきましては、葛飾区内公立小学校・中学校。保田しおさい学校につきましては、いじめ調査のみを対象といたしまして、暴力行為、いじめ、不登校の実態を把握するために実施したものでございます。

まず初めに、平成23年度の全国における児童・生徒の調査におきます暴力行為についてお話をさせていただきます。

こちらの暴力行為につきましては、平成21年度に過去最高の件数となっておりますが、平成23年度においても件数は減少したものの1,000人当たりの暴力発生件数は、2枚目のほうをごらんいただくようになりますが、小学校において1.0件となっております。そして平成21年と同様の値となっております。さらに中学校では10.9件となっております、平成22年度よりは1.5件減少しているという状況でございます。

今、こちらの表をごらんいただいておりますが、暴力行為におきましては、対教師暴力、こ

れは子どもが教師に対する暴力です。そして生徒間暴力は子ども同士、そして対人に対する暴力、こちらにつきましては教師以外の例えば葛飾区で言いますと学校支援指導員とか、そういう方、さらには学校に来校された保護者や地域の方への暴力が対人暴力というふうになっています。そして器物破損の4点でこちらのほうの調査をしておるところでございます。

まず小学校についてでございますが、学校内の暴力につきましては、平成22年度には3校33件、一番上の表の右のほうになります。本区は3校の3件でございましたが、平成23年度につきましては2校の2件と減少をしております。この中では、対人暴力というものが1件、そして対教師暴力というものが1件となっておりますけれども、対教師暴力については教師の指導に従わず指導した教師に対して暴力行為を行ったというものでございます。対人暴力につきましては、卒業式の予行練習中に練習態度について参観していた保護者の方が指導したところ、つかみかかったという例でございます。

学校外の暴力につきましては、小学校につきましては22年度も23年度も0件でございました。

次に中学校についてでございます。こちらにつきましては、23年度は学校内での暴力につきましては15校98件ございました。そのうち、残念ながら10件以上の暴力行為が起こってしまった学校は2校ございました。その中で非常に大変数字で目を引いてしまうのが23年度の対人暴力のところでございます。こちらでは東京都全体で10校、そして28件というところでございますが、そのうち本区では1校において全部で13件起きているという状況でございます。都内28件のうち本区のほうが13件というところで、こちらが非常に今回の調査において私たちも、また今後しっかりと対応をとるところの視点かなというふうに考えております。

こちらについては、実際にどのようなことがあったかと申し上げますと、ある子どもが自分の父親に対して学校内で足をけったということがございます。父が何か子どもに注意したことに対して足で父親をけってしまったという件がございます。さらには、先ほどお話ししたように学校支援指導員に対して、指導に対して無視をした上に小突いてしまったというようなことで、こちらのほうの件数に入っております。そのようなこちらのほうで1校におきまして13件の延べ件数ですが、数字が上がっているということでございます。

学校外の暴力行為につきましても、こちらのほうでは22年度と比べますと校数については増えておりますし、延べ件数についてもこちらのほうは増えております。これにつきましては、学校外における学校間抗争が昨年度起きたということで、このような形で出ております。なお、学校外での対教師暴力については、0件ということでございます。

本区におきましては、全体を見ますと小学校・中学校において暴力行為そのものが減少しておりますが、やはり今申し上げてきたように、まだまだ当然これから解決すべき取り組むべき課題はあると認識をしておりますし、今後も今も含めて取り組んでいるところでございます。

ただ、減少した理由を考えてみますと、一つはそれぞれの学校間での情報の共有が区としてはしっかりと確立しているという部分がございます。例えば中学校の生活指導主任が月1回きちっと集まって、それぞれ自分の学校の様子を情報提供するとともに、それぞれ学校外のことで各学校の子どもがかかわっている部分がございますので、そういうところでしっかり情報を共有して、それぞれの学校で持ち帰って指導するというところで役立っているという部分がございます。さらには、今の会議も出席をいたしますが、警察や児童相談所とか少年センターの方との連携も成果を上げているところでございます。

今、中学校のお話をしましたが、小学校においても情報共有については進めているというところでございます。小中ともに子どもの健全育成に向けて、各学校だけで抱えることなく、区全体で情報共有をして対策を練っているということが減ってきている一つの要因かというふうに考えております。今後も当然学校間、そして警察等の関係機関と連携をしっかりと進めながら、さらには児童・生徒に対してもセーフティ教室等の実施を通して子どもたち自身からも暴力行為等について考える機会として学習を進めていきたいと考えております。

次に、おめくりいただきまして、いじめの発生についてでございます。こちらにつきましては、平成22年度と比べまして、いじめの件数につきましては小学校が54件から40件、中学校が37件から38件という形で、全国・全都では22から23については増加をしている中では、今お話ししたように小学校では14件の減少、さらには中学校では1件増えているという状況でございます。本区としては、いじめが起きたときに早期対応・早期解決ということでその解消に向けて努力をしておるところでございますが、本校のいじめの解消率については、今、上昇をしているところでございます。

本区のいじめの特徴につきましては、今年度につきまして、いじめについていろいろお話をしているところでございますが、やはり一番多いのが冷やかしかからかい等の言葉によるいじめが多いというのが昨年度も今年度も共通しているところでございます。今年度いじめの認知については、再度定期的にしっかりと把握するなど行っている中で、既に昨年度の件数よりも本年度は超えているという状況がございます。それについては、もう一度今回大津の事件等を通して「いじめは絶対に許されないもの。いじめがあったときには、きちんと自分たちだけで囲うことなく大人に相談しなさい」と子どもたちに話をした上で、しっかり学校のほうでもアンケート等から取組をしておりますので、今回、今年度については、来年度またご報告をするときには、23年度と比べると数値は上昇していると思っておりますけれども、数値は上昇してもしっかりと対応と解決に向けて行ったということについては、来年度またご報告はさせていただきたいと考えております。

ふれあい月間等の取組として行われます年3回、さらには区独自の4回のいじめの実態調査も行っておりますので、そのあたりもしっかりとデータとしてとらえて学校とともに教育委員

会はいじめの根絶、起きたときには早期対応・早期解決に向けてしっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えております。「いじめられた子どもは絶対に守る」と緊急アピールも出させていただきましたので、このあたりをしっかりと踏まえてやってまいりたいと思っているところでございます。

最後に不登校の状況についてでございます。不登校の状況につきましては、平成22年度と比べますと小学校においては2人減少、中学校におきましても20人の減少しております。出現率ということもお話をいつも申し上げておりますが、小・中学校ともに全国と比べますとまだまだ出現率は本区のほうは高い。しかし、都全体と比べますと出現率のほうは都よりも低くなっているという現象がございます。こちらにつきましては、他の自治体と比べますと、区としてスクールカウンセラーを各学校にしっかりと配置をしているということもございまして、本区の先生方の不登校に対するしっかりと取り組もうという姿勢が年々高まっていると私自身は実感をしているところでございます。さらには、葛飾学校問題の解決支援チームによる取り組みも行っておりますし、いじめや不登校対策検討委員会においても区全体としての取り組みも提言しているというところも大きな要因かというふうに考えております。

不登校の原因につきましては、小学校では不安などの情緒的混乱が約4割を占めております。そして無気力が約15%。中学校ではやはり不安など情緒的混乱は約4分の1、25%ほど、これが一番多くなりますが、中学校で無気力による不登校が不安定な情緒的混乱と同様に約25%というようなことになっております。遊び、非行とかいろいろそういうところも中学校になりますと出てまいりますけれども、やはり子どもたちの思いをしっかりと学校にいる教職員、さらにはスクールカウンセラー、さらには家庭の保護者の皆さんもそれをきちっと受けとめる。そしてともに情報を共有して、子どもたちの不安等をどのようにして解消していけばいいのかということをお話し合うことも非常に重要であるというふうに考えております。これからは教育委員会も学校、さらには保護者とも十分に連携をとりまして、不登校については数をしっかりと減らす。そして、もし不登校に一度陥っても、できるだけ学校復帰に向けて前進できるように私たち自身もこれからは力を尽くしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

今、報告がございました。質問等ありましたらお願いいたします。

遠藤委員。

○遠藤委員 2点についてお願いしたいと思っております。

1点目は1枚目であります。中ほどのいじめの定義についてであります。先ほど議会から挙がってききたいじめの事例について、信頼関係が破綻状態になっているということの大きな原因としてスピード感ということをご指摘されました。なぜスピード感が出てこないのかと

いうことの一つに、いじめの定義につきまして、定義というとな堅苦しくなりますけれども、学校、あるいは教育委員会と保護者の間に乖離があるというふうには私は思っております。表現されました、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより精神的な苦痛を感じるもの。これは学校ないしは教育委員会はわかるかもしれませんが、保護者にとってはちょっと難しいというか、どうにでもとれるというか、そういうものでありますので、保護者にも私たち教育委員会ないしは学校と共有できるような、共通認識になるような考え方というのではないのでしょうかということが1点です。

それから2枚目であります、先ほども挙げられました1校で年間に13件の対人暴力ということですが、これが1校の中で、まず学校内で父親にということですが、これがどうして13件続いているのか。その間に学校が父親も含めましてどういう指導をされているのかということが見えてきませんので、この辺をお願いしたいと思います。なぜかと申しますと、こうした1件が生徒に与えていく影響力、学校全体の規律、そういうものに与えていく影響というのは大きなものがあると思います。学校運営をこれから進めていくに当たっての影響があるので、一つの1件でもやはり全力で指導していくということが大事ではないかという観点から申し上げるものでありますので、その2点についてお願いいたします。

○委員長 指導室長。

○指導室長 まず、いじめの定義に関するご質問のことについてお答えをさせていただきます。確かに先ほど議会のほうで質問を受けましたスピード感のことですが、今、私も振り返ってみまして、昨年度いじめが起きたということについては、これは学校がいじめの定義に対して十分な定義に基づいた子どもからの聞き取り等が不十分であったと私は思っております。確かに子どもたち同士学校生活の中で、それぞれ子どもたちの中でもいろいろなことが起きると思いますけれども、やはりいじめを受けたと精神的な苦痛を感じている子どもからは、何らかのサインは出ていたのではないかというふうに考えております。そういう意味では、そのところがお互いさまだからとか、そういうようなことが先に立ってしまってサインを見逃してしまったということは、私は確かにあるというふうに考えております。

さらには保護者の方についての先ほどのお話ですが、やはりいじめの定義と言わずにいじめについては、大きな問題であるということは、私は学校が保護者会を通して保護者に対して学校がいじめが起きたときにどのような方針で取り組んでいくか。さらには保護者の方においても、学校では見えない子どもの悩みやそういうもののサインを見つけたら学校のほうにお伝えいただくというようなことで、保護者と学校がしっかりとそういう情報を共有して、ともにいじめをなくすというふうにしていくのだということを、学校が再度方針として校長みずからが保護者に示すことが重要であるというふうに思っております。そういう意味では、もう一度保護者の方にもしっかりとお話をしていくということを各学校ができるように、私も校

長に対してお話しはしてまいりたいと考えております。

次に、1校13件の対人暴力の件でございます。確かに1校で1人のお子さんではないのですが、延べ13件のことが起きたということについては非常に残念であるというふうに思っております。これについては、実際13件ということですので、例えば1人の支援員さんに対して3人の子どもが行って1回ずつ小突いてしまったらそれで3件というような数値になりますけれども、このことについては、起きたときには必ず学校としては本人を呼んで別室で当然指導をいたします。それからさらには保護者に必ず来ていただいて、保護者と子どもとともに学校から事実をお伝えし、さらには保護者に対して、学校でもしっかりやりますがご家庭でもこのことを踏まえてご協力いただきたいということで、かなり学校のほうとしては保護者に対しても毅然とした態度でお話をしている事実はございます。

さらには、当然対人暴力において被害に遭われた方についての学校としての謝罪も、さらには保護者、そして子どもからの謝罪もしっかりとこれについては行っているということは確認をしております。しかしながら、このようなことが続いてしまったという現状がございまして、この件につきましてもそうですが、今、当然警察や児童相談所、少年センターとの連携も進めておりますし、葛飾区の指導室におります警察OBの方にも行っていただいたり、指導主事もその場に行って実際に情報の収集とともに、今後の防止に向けて、ある意味では子どもに対してもきつく叱っているという部分はございます。しかしながら数字がこのような数字に出ているので、このところについては何か指導の問題があったのかということも踏まえて、しっかりとこのようなことが起きないように私たちとしても全力で学校とともにやってまいりたいと考えておるところでございます。

○委員長 よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

竹高委員。

○竹高委員 10月中に道徳地区公開講座というのがいろいろな学校で行われているので、何校かに参加させていただきました。小学校・中学校においても、やはりいじめや不登校が起きるのに当たってつながっているのかなというふうを感じるのは、生徒たちが授業中に先生に対して視線をきちんと合わせて集中して、信頼して授業を受けているのかどうかというのが、普通に私の保護者の視点から考えたところでも、そうであるクラスとそうでないクラスというのは、ほんの10分見ているだけでも感じてくるものなのだなというのを勉強させていただきました。

いじめや不登校につながるということというのは、やはり先生方に2年目、3年目の先生もそうですけれども、頑張って生徒たちとの信頼のコミュニケーションをきちんとつなげていただいて、困ったときに必ず生徒が信号なり一言なりを発することができるような状況をつくっておいていただけるようお願いしたいのと同時に、その先生方をサポートする学年であったり学校で

あったり、全てのシステムの先生がスクラムを組んで子どもたちのために今、動いていただかないと、多分件数はどんどん大津の事件を含めて膨れていくと思います。いじめというのは多分、今、表面上に起きていることだけではなくて、すごく隠れているもののほうがたくさんあるはずですので、そういうところがどんどん深くなっていかないうちに先生方に子どもたちの危険な信号とかを察知していただいて動いていただけますように、本当に先生方のご努力をすごくなさっているというのも通じてきますので、ぜひいま一度よろしく願いいたします。

○委員長 指導室長。

○指導室長 お話の中に教師と子どもの信頼というようなお話がございました。子どもとの対応について、まだまだ悩んでいる教師もいるということも私どもも把握をしております。初任者の段階から3年間かけて継続的にいろいろな研修を進めているわけがございますけれども、葛飾区には優秀な教員の表彰制度もございますので、例えば優秀な教員の表彰を受けた教員がどのような形で授業や例えば日常の子どもとのかかわりをしているのか、そういう実際の場面も見学していく、そのようなことも実際これからの研修の中では必要かなというふうに思っております。校内の中で優秀な先生方がいて、その中で学ぶということもありますけれども、葛飾区の優秀な教員の表彰制度の教員の子どもの信頼関係をどう築いているのかということも上手に活用しながら信頼について高められるように、これからも私たちのほうとしては研修の充実も進めていきたいと考えております。

○委員長 よろしく願いします。

ほかにございませんか。

佐藤委員。

○佐藤委員 過去の例を見ますと、たしか5、6年前に一つのいじめの事件がマスコミに取り上げられまして、それが爆発的に全国的に広がっていったのを記憶しております。また今回も大津の事件からいろいろ問題になっていることと思いますが、本来いじめというのはいつでもどこでもあるわけですし、先ほどの室長のお話から教師などにいじめ対策の姿勢が高まっているということで大変喜ばしく思っております。私が思うには、いじめの件数とか回数が多くなるのは恥とせず、そういういじめられている子などがサインとか相談、申し入れとかいろいろしやすいような形をつくっていただきたいなど、このように思います。いずれにしても早期発見と早期対策をよろしく願いいたします。

○委員長 よろしく願いをいたします。

ほかにございませんでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 それでは、私のほうから。

先ほどもありましたが、どの学校でもいじめも不登校も起こり得るというような現代の社会

だと思ふのです。本当にいじめられた状況になっているお子さんは、なかなかそれを言わない。そして、だれにも言わない。「いじめられているのではないの」と声をかけても、「ううん、いじめられていない」と答えるということを新聞等で読むと私は本当に心が痛いのです。本当に子どもの心の中に入っていついつているのかな。一人ひとり子どもによって入り方が違うわけで、そのあたりも一人一人の先生が気づかなければいけないと思ふのです。

それと同時に、1人の先生がそんなにたくさんのいろいろなことはきっとノウハウないと思ふので、学校という組織の中で、そういうことが校長先生に相談できる、あるいは隣のクラスの先生に相談できる、そういうような風通しのいい、あるいは問題を一緒にとともに考える雰囲気のある学校、そういった学校の中だと非常に抱え込まないでいけるのかなというふうと思ふのです。

サインはいっぱい見つけるけれども、見つけたからその子に聞くと「違う」と言う。「じゃあ、違ってたのだ」、こうなるような浅いとらえ方でない方法にしていく。そのためには、先ほどもお話ししましたが、学校全体がどんなことでも相談できる、あるいは教え合う、あるいはともに悩み合える、そういう雰囲気であってほしいと思ひます。

それから不登校もそうなのですが、これも根がとても深いのではないのかな。長く時間を置いていますと、親もあきらめている状況、それから学校のほうも少し距離を置いてしまうような関係になっている状況かなというのを知る機会がありまして、そこは何かしたいなと思ふのです。そういう親のところに入っていきのはとても大変なことなのだけれども、そのためのスクールカウンセラーとか専門家がいますから、そういうところには担任ではなくて専門家がぜひ家庭のほうへ入っていただけるようなことを今あるわけですので、ぜひ活用していただきたいと思ひます。

いずれにしても風通しのよい学校の雰囲気と、それから時間をかけて丁寧に対応することの大切さ、そして学校中が本当にまじめな雰囲気のある学校になっていくように生活指導も含めてやっていかなければいけない。そのためには教育委員会はどうしたらいいのかなというのが私の悩みなのですけれども、何かあったらすぐ指導主事の先生が飛んできてくださるとか、何かあったら「こういう人材がありますよ」「相談所がありますよ」というのが答えられる、そういう体制で引き続いてやっていただければと思ひます。

以上でございます。

ほかによろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 では、次に報告事項等6「かつしかスポーツフェスティバル2012の実施結果について」。

生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 それでは、報告事項等6「かつしかスポーツフェスティバル2012の実施結果について」ご報告申し上げます。

先日10月8日の体育の日でございますが、総合スポーツセンター体育館、陸上競技場ほかで行われましたスポーツフェスティバルの結果報告でございます。

前日の昼まで雨が降った関係で、準備を含めて多少きつい日程となりましたが、当日は運動会日和で非常にいい天候のもと開催することができました。今回は第36回の区民大運動会ということと、また、来年開催されます「スポーツ祭東京2013」普及イベントということで実施をさせていただくものでございます。会場ではのぼり旗や東京都の推奨花、また、スポーツ祭東京のマスコットキャラクターの「ゆりーと」による会場の盛り上げ、ゆりーとダンスの発表などなど、さまざまな工夫を凝らしてございます。

また、区制施行80周年ということもございましたので、運動会の競技を一部再検討を加えまして大縄跳びを加えさせていただくというようなことで開催させていただきました。また、スポーツ祭東京の部分では、バウンドテニス、ダーツ、グランドゴルフという葛飾区で開催されますスポーツ競技の体験コーナーなどを設けまして、スポーツの普及啓発ということで周知したものでございます。

資料をごらんください。参加人数でございます。延べでございますが3万2,194人ということで、昨年度比約3,000人の増ということでたくさんの皆様を受け入れてございます。おおむね会場の内訳でございますが、陸上競技場が6,000人、周囲のイベントについては1万1,379人です。こちらは約2,000人の増加となっております。また、総合スポーツセンター体育館の中のイベントでございますが、各コーナーごとのご利用がふえまして、約1,500人ほどの前年度比増となっております。

そのほか各施設などなどの利用状況でございますが、前日の雨の状況があった関係で河川敷の野球場の無料開放利用が少しできなかったということで、こちらの部分は前年度比マイナス320ということでございます。

そのほか地区対抗競技の結果でございますが、ことしは総合優勝・新小岩地区、準優勝・お花茶屋地区、第3位・金町地区ということで、ここ2年間競技の内容を毎年見直しを加えていることから、今まで競技内容を固定した時期よりも各地区ごとの優勝のメンバーが変わってきているということで、非常に各地区内の青少年地区委員の指導の皆様も一生懸命やっていたという成果が出ているかと思えます。

また、6、救護・迷子件数でございますが、10件ということで救護が8件、迷子2件ということでございます。そのうち1件でございますが、最後に皆さんが帰るときに自転車で転倒してしまって手首あたりを骨折したというような状況もございましたので、私どもとしても時間的には職員は6時過ぎまでしっかりいたところですが、お帰りになって解散してからの事故と

いう情報も入りましたので、報告をさせていただきます。

おおむねこういう形で非常にいい天候の中、教育委員の皆様方にも来ていただいたということでございます。非常にいい大会ができたと思います。

ご報告は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

今の報告で何か質問等ありましたらお願いします。

遠藤委員。

○遠藤委員 毎年のことでありますが、体育の日というのは単なる体育だけやっているのではなくて、文化的にも、あるいは各町会などでもさまざまな催し物がありまして、どちらに行ったらいいのかわからないぐらいで駅に行きますと、我々はこっちに来るけれども、別の人はこちらのほうに行ってしまう、上のほうへ行ってしまうということもあり得る中で、こうしてたくさんの人に参加していただくことは大変我々としてはうれしく思います。そして、しかも晴天の中で盛大に行えたことに対しまして、それを支えられました事務局の皆さんには心から感謝を申し上げる次第であります。大変ありがとうございました。

○委員長 ほかにございませんでしょうか。

竹高委員。

○竹高委員 大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。スポーツフェスティバル、最後まで見させていただいたのですけれども、最後まで参加をしていた表彰式に出ている子どもたちとかが最後にバスで乗って帰る際に、想定されているバスの時間が若干ずれているように思いますので、時間を設定するのではなく、乗ってきた子どもたちとかが乗って帰れるバスとして、時間は閉会式後みたいな形のくくりにするであるとか、そうすると閉会式まできちんといられるお子さんたちも増えるのではないかなというふうに感じましたので、よろしく願いいたします。本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。

○委員長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 こちらの当日の開催運営につきまして、表彰式が約20分ほど遅れたということでございます。事前のリレーの関係で失格だとか、そういうものがありましたので、ちょっとトラブルったことがございましたけれども、全体的には帰りのバスに乗っていただいてお帰りいただくというシステムで、今回バスの出発も20分おくれとさせていただきます。こちら午前中は非常に競技の運営がスムーズに進んでございましたので、前倒しができるかなと思ったのですが、ゴーバスターズショー以降は定時通りにやらざるを得ないということもありましたので、結果的にトラブルも含めましておくれた形でございます。

ただ、バスの中で同じバスに乗ってお見えの方たちなのですが、隣の地域の方はもう表彰式に用がないので早く出せということで駐車場の中でトラブルがあったということも聞いており

ます。ただ、全てのお客様を安全にお返りするまでが私どもの仕事でございますので、先立って出すわけにもいきません。しっかり一緒に乗せてお帰りいただいたということでございます。今後ともその辺の進行については、注意していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○委員長 よろしいですか。

○竹高委員 お疲れさまでした。

○委員長 ほかにございませんですか。

佐藤委員。

○佐藤委員 今回のバスの件なのですが、私も無料のバスがあるということで、たまには乗ってみようかなと思って行きに乗ろうと思って行ったら、バスの停留所みたいところに看板がありまして、時間を見たら出るのが10時なのです。時間が何でそんな遅いのかなと思って、とても間に合わないので普通の定期バスで行ったのですけれども、時間はどうなのですか。

○委員長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 無料シャトルバスをいくつか青砥駅、亀有駅、堀切菖蒲園、金町、新小岩など多くのバスを発車させていただいております。こちらはお客様の時間帯が10時前後ということにしております。選手の皆様の受け付けが早い時間がございますので、選手の皆さんの場合は8時15分亀有発という形でやっております。お客様の輸送と地域巡回バスの都合がございますというので流れがございますけれども、佐藤先生のお話の部分ではお客様用の部分だったかと思っております。

○佐藤委員 わかりました。

○生涯スポーツ課長 よろしく願いいたします。

○委員長 ほかにございませんでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 大きな大会をスムーズに行うために、準備、片づけ、見えない部分でのご苦労が多かったのではないかなと思います。本当にありがとうございました。

それでは、報告事項等はこれで終わりにいたします。

ここで、教育委員の皆様、何か発言がありましたらお願いをいたします。

ございませんか。ないですか。

(「なし」の声あり)

○委員長 実は私この間、秋田県の研修会に行くことがございまして行きましたら、やはり学力1位の秋田ですから、そのことを非常に私は興味を持ちまして、そうしましたら行政の方もたくさんいらしてお話を伺ったりしたのですけれども、その中で印象に残っていますのは、「まじめ」ということを非常にスーッと言うのです。私の感覚がおかしいかどうか別にしまして、東京で今「まじめ」という言葉を普通に使うと何となくダサイというような印象を受ける、

そういうところがあるのですけれども、非常に「まじめに子どもたちを育成したい」とか「まじめに親として何々したい」とか普通に皆さんが使っておられて、やっぱりこういうことというのは大事なのではないのかなというのを改めて思いました。

そしてまた「決まりなどルールなどというのは、そんなのは当たり前のことだよ」、そういうことなのです。「規範意識などとそういうふうに大上段に構えるのではなくて、当たり前のこと、それは家庭でも社会でも学校でも。家族がにこやかに夕ご飯を一緒に食べたり、朝ご飯を一緒に食べたりすることも、これもまた当たり前のだよね」というような話を聞いて、都会と秋田の田舎との地域性も感じましたけれども、何か学ぶことが多かったというふうに思いました。

実際に子どもたちに出会う場面もあったのですけれども、中学生だったのですけれども、場所へ連れて行って私たちに説明をしてくれたりする、そういう総合の時間ですとおっしゃいましたけれども、非常にまじめなのです。それでいてかたく練習させられたまじめではないのです。本当に根っからそういうのが当たり前というまじめで、挨拶の仕方、言葉の使い方、私たちを見る対応も。「よし、これを葛飾に」と私も思って帰ったわけでございます。実際にはどういふふうに行かされていくか、まだ私にとっての大きな課題ですけれども、そんな感想を持った秋田でした。

それでは、「その他」に入ります。庶務課長、まとめてお願いいたします。

○庶務課長 それでは、「その他」でございます。

1の資料の配付でございます。お手元に11月の行事予定表をお配りをしてございます。1カ所訂正をお願いしたいと思います。11月23日、金曜日の研究指定校発表でございますけれども、これは22日、木曜日でございます。申しわけございませんでした。

それから「みんなの生涯学習（109号）」、「博物館だより（105号）」、「かつしかのきょういく（119号）」をお配りをしてございます。

次に出席依頼でございます。今回はございません。

次回の教育委員会でございます。11月6日、火曜日、午前10時からでございます。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 それでは、これをもちまして平成24年教育委員会第10回臨時会を閉会といたします。ありがとうございます。お疲れさまでした。

閉会時刻 11時35分